

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	15H05787	研究期間	平成27年度～平成31年度
研究課題名	免疫系の制御による生体恒常性維持システムの解明と疾患の予防・治療基盤の確立	研究代表者 (所属・職) (平成30年3月現在)	谷口 維紹 (東京大学・生産技術研究所・特任教授)

【平成30年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)		
<p>本研究は、自己由来分子による新たな免疫系の制御機構を明らかにし、その制御機構が関わる生体恒常性の維持と破綻（疾患）のメカニズムを解明することを目的としている。</p> <p>本目的を達成するため設定された4項目の研究計画は順調に進行しており、いくつかの重要な知見が明らかとなっている。細胞外に放出された HMGB1 (High-mobility group box 1) の抗腫瘍効果とその機構を解明し、さらに新規 DAMPs (Damage-Associated Molecular Patterns) を見いだしている。また、Kupffer 細胞によるがん細胞の認識と排除における Dectin2/Mcl 複合体の機能を解明し、新しい胆嚢と腸管の免疫クロストークの存在を明らかにしている。</p> <p>今後、各項目の研究をさらに発展させるとともに、当初研究計画にあるように、各項目の相互の密接な連携による新たな研究展開を期待する。</p>		